

花王 牡丹 画譜

2019

10・12 SAT → 12・1 SUN

※会期中一部入れ替えあり

開館時間 9:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)

休館日 月曜日(但し、祝日・振替休日の場合は開館、翌日が休館)

入館料 一般 800円(700円) 高校生 500円(400円)

小・中学生 300円(250円)

()内は20名以上の団体料金

主催 公益財団法人タカヤ文化財団 華鶴大塚美術館

はな とり 公益財団法人 タカヤ文化財団
華鶴大塚美術館

〒715-0024 岡山県井原市高屋町3-11-5

TEL.0866-67-2225 FAX.0866-67-0200

<http://www.takaya.co.jp/hanatori/museum.html> E-mail hanatori@fib.takaya.co.jp



花王・牡丹画譜

華鶴大塚美術館は、平成6(1994)年に近現代日本画をメインに洋画、彫刻などあわせ約400点の収蔵品で開館しました。館名「華鶴」は、収蔵品の多くが花鳥画をモチーフとすること由来します。

このたび、当館の開館25周年を記念して、王花の異名を持ち、所蔵品のなかでも数多いモチーフであります「牡丹」を描いた作品を紹介する企画展を開催いたします。

牡丹は中国原産の花ですが、日本には8世紀頃に中国から薬用植物として入り、その後観賞用としても栽培されるようになり、江戸時代には数多くの園芸品種が生み出されました。牡丹は大輪にして華麗、豪華、そして妖艶な花の姿が愛でられ、同時に古来より多くの絵画や各種工芸品のかっこうのモチーフとしてもしばしば表されてきました。

本展では、近現代を代表する日本画家たちが描いた豪華絢爛な牡丹の競演をお楽しみいただけます。牡丹は、その存在感から「花王」「百花の王」に称えられます。花言葉は、「恥じらい」「富貴」。また、「立てば芍薬、座れば牡丹」と女性の美しさにも形容される花の貴婦人であり、日本人の美意識に共鳴する花であります。四季折々の風趣に恵まれ、自然とともに営みを育んできた日本人は、古来より草木花に寄せる思いは深く、豊かであります。牡丹をめぐる画家たちの多彩な表現をこの機会にご堪能ください。



金島桂華「牡丹」広島県立美術館蔵



小林古径「牡丹」蘭島閣美術館蔵



川端龍子「富貴」華鶴大塚美術館蔵



石本正「天王紅白牡丹」
浜田市立石正美術館蔵



加山又造「牡丹」名都美術館蔵
(展示期間：10/12～11/4)

講演会

無二荘牡丹園(京田辺)を訪れた画家たち－牡丹の魅力

日時：10月26日(土) / 13:30～

お話し：無二荘牡丹園 3代目花守 辻尾仁郎氏

※申込制(聴講には入館券が必要です)

ワークショップ：薩摩ボタンの絵付け体験

牡丹を描こう!

日時：11月16日(土) / 9:30～11:00、12:30～14:00、
15:00～16:30

11月17日(日) / 9:30～11:00、12:30～14:00

募集・対象：各回4名・一般(先着順)

参加費：3,500円(材料費・制作費)

【協力】絵付け舎 薩摩志史 薩摩ボタン絵付け師 町田智子氏

華鶴大塚美術館開館25周年記念ミュージアムコンサート

音楽の夕べ～名曲の調べ～

フランツ・パルトロメイ(チェロ) × 大下祐子(ピアノ)

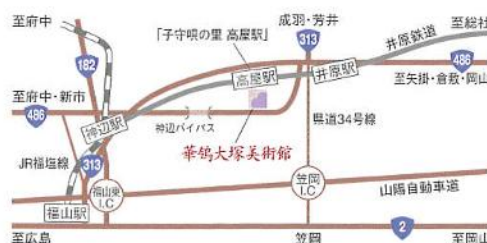
日時：10月21日(月) 開演 18:30 / 開場 17:30

チケット：おひとり3,000円(入館料含)【予約制】

美術館別館「緑樹園」公開

日時：10月12日(土)・11月2日(土)・
23日(土) / 10:00～16:00

※本館入館券で自由見学



ご利用案内

- 井原鉄道「子守唄の里 高屋駅」から徒歩1分。
岡山方面から
JR岡山駅から伯備線で清音駅下車、井原鉄道に乗り換え。
井原鉄道「清音駅」から「子守唄の里 高屋駅」まで乗車。
【所要時間：60分前後】
福山方面から
JR福山駅から福塩線で神辺駅下車、井原鉄道に乗り換え。
井原鉄道「神辺駅」から「子守唄の里 高屋駅」まで乗車。
【所要時間：30～40分前後】
- お車では、山陽自動車道・笠岡IC、あるいは福山東ICから所用時間約30分。

はな とり 公益財団法人 タカヤ文化財団
華鶴大塚美術館

〒715-0024 岡山県井原市高屋町3-11-5
TEL.0866-67-2225 FAX.0866-67-0200

http://www.takaya.co.jp/hanatori/museum.html E-mail hanatori@fib.takaya.co.jp